

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

令和8年1月30日

協議会名:猪名川町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域旅客運送サービス継続推進事業(運送継続計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
・路線バスの利用実績の分析 ・公共交通・乗継情報等の提供 ・モビリティマネジメント教育事業の企画調整 ・協議会の開催	B	予算の確保ができず一部事業が実施できなかったが、予算を確保できた事業については適切に実施された。	予算の確保ができず一部事業が実施できなかったため、予算の確保に努める。 周知・啓発のためのイベント等への参画やモビリティ・マネジメント教育事業を運営事業者とともに継続実施していく。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名:猪名川町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
日の丸ハイヤー(株)	デマンド交通チョイソコいながわの運行(阿古谷・松尾台地区)	<p>◆ 交通会議で議論を重ねた作成した杉生線地域旅客運送サービス継続実施計画に沿って令和6年10月より実施した。</p> <p>◆ チョイソコいながわについて隔月で本町・運営事業者・運行事業者でミーティングを開催し、常時情報共有をすることで、運行の改善等に適宜対応した。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	<p>【利用者数】 R12目標→年間11,400人以上 達成状況→9,271人</p> <p>【運賃収入】 R12目標→510万円以上 達成状況→236万円</p> <p>【国・県・町からの支出】 R12目標→2,188万円以内 達成状況→945万円</p> <p>【収支率】 R12目標→25%以上 達成状況→20%</p> <p>【書評】 計画どおり住民の移動手段を確保することができた。</p>	持続可能な公共交通ネットワークを議題として、会議にて諮ることで運行計画の内容をブラッシュアップすることに加え、利用促進に向けた取り組みの実施を運営事業者とともに検討する。
阪急バス(株)	阪急バス杉生線運行	—	A 計画どおり事業は適切に実施された。	<p>【利用者数】 R12目標→年間25,011人以上 達成状況→44,134人</p> <p>【運賃収入】 R12目標→776万円以上 達成状況→1,310万円</p> <p>【国・県・町からの支出】 R12目標→3,000万円以内 達成状況→3,500万円</p> <p>【収支率】 R12目標→25%以上 達成状況→26%</p> <p>【書評】 運休していた一部区間の再開を実現し、本町北部住民の生活移動手段を確保することができた。</p>	持続可能な公共交通ネットワークを議題として、会議にて諮ることで運行計画の内容をブラッシュアップすることに加え、利用促進に向けた取り組みとして、周知・啓発のためのイベント等への参画やモビリティ・マネジメント教育事業を運営事業者とともに継続実施していく。

## 事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和8年1月30日

協議会名:	猪名川町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>○ 地域特性</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・町域は東西に約8km、南北に約18kmと南北に細長い形状(面積:90.33m<sup>2</sup>)。</li><li>・町最北部に位置する大野山(標高753m)を源流とする猪名川が町の中央を北から南へ流れ、その周辺に集落が形成されており、町の南部の丘陵地では民間事業者による大規模住宅地開発が行われ、市街地を形成。</li><li>・人口:28,264人(令和7年9月末現在)</li></ul> <p>○ 取組の実施に至る経緯</p> <p>阪急バス・能勢電鉄・コミュニティバス・タクシーが地域公共交通として、住民の重要な移動手段を担っているが、少子高齢化や人口減少に伴う公共交通利用者の減少や交通事業者の乗務員不足など、地域交通は深刻な状況にある。そこで、利用者のニーズに合った路線に見直し、利便性を上げ猪名川町の地域交通を元気にするために、運営事業者であるネットヨタ神戸(株)、運行事業者である日の丸ハイヤー(株)と連携し、新しい交通システムとして乗り合い移動サービス「チョイソコいながわ」を実施し、生活交通ネットワークの構築を進めているところである。</p>

## 猪名川町地域公共交通会議（ネットワーク全体の評価）

### 1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

#### 公共交通の将来像

##### ○ 地域特性

猪名川町は、以下のような地域特性が挙げられる。

- ・町域は東西に約8km、南北に約18kmと南北に細長い形状（面積：90.33㎡）。
- ・町最北部に位置する大野山（標高753m）を源流とする猪名川が町の中央を北から南へ流れ、その周辺に集落が形成されており、町の南部の丘陵地では民間事業者による大規模住宅地開発が行われ、市街地を形成。

人口：28,264人（令和7年9月末）

高齢化率：34.9%（令和7年9月末）

人口動態：（R5年度）

自然増加 －250人（出生 72人 死亡 322人）

社会増加 －279人（転入等 620人 転出等 899人）

産業構造：【事業所（R3年）】

事業所数：642 従業者数：7,690人

【商業（R3年）】

商店数：115（卸売 16 小売 99）

年間販売額：290億3,200万円（卸売 9億4,200万円 小売 280億9,000万円）

【工業（R4年）】

工場数：14 製造品出荷額：97億2,891万円

【農業（R4年）】

農家数：558戸 耕地面積：399ha

【猪名川町地域公共交通計画】（R6.7月改訂）

##### ○ 基本方針と計画目標

基本方針：元気に安心して暮らせる魅力あるまちづくりを支える持続可能な公共交通を構築

##### ○ 計画の目標及び期間

###### 1. 計画目標

- ①：まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの形成
- ②：わかりやすく・利用しやすい地域公共交通環境づくりの推進
- ③：住民・事業者・行政等の多様な関係者との連携による持続可能な地域公共交通の実現

## 2. 計画期間

令和4年度から令和12年度までの9年間

### ○ 公共交通の将来像

現状の運行状況や役割を踏まえ、「広域基幹交通」、「町内基幹交通」、「生活交通」に機能分類し、階層的なネットワークを構築。

また、「乗継拠点」を設けることで、広域基幹交通、町内基幹交通、生活交通の接続性を高め、効率的で効果的なネットワークの形成を目指す。

### 1. 猪名川町における公共交通の役割分担と位置づけ

機能分類	役割	対象
広域基幹交通	○ 町内と周辺市町を結ぶ町の骨格を形成するために重要な機能を担い、広域的な公共交通の軸として、通勤・通学等住民生活を支える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道（能勢電鉄：日生線）</li> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（清和台系統）、猪名川パークタウン線、つつじが丘線）</li> </ul>
町内基幹交通	○ 町内の都市拠点や集落拠点間を結ぶ町内の骨格を形成し、町内各地域と猪名川町中心部等とのアクセスに重要な役割を担い、住民生活を支える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（杉生系統）、日生ニュータウン線）</li> </ul>
生活交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 路線バスが乗り入れ困難な地域の生活圏内の移動を支え、猪名川町中心部及び基幹交通（広域基幹交通・町内基幹交通）へのアクセス手段として機能を担い、住民生活を支える。</li> <li>○ デマンド交通「チョイソコいながわ」は、コミュニティバス「ふれあいバス」では対応しきれない需要が分散・少ない地域を補充する役割や移動が困難な交通不便地域の解消を担う交通モードの役割を担い、住民生活を支える。</li> <li>○ タクシーは、他の公共交通機関が運行していない時間帯をはじめ地域住民及び来訪者等の移動ニーズに応じたドア-to-ドアの輸送が対応可能な移動手段であることから、猪名川町の公共交通機関として位置付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス「ふれあいバス」</li> <li>・デマンド交通「チョイソコいながわ」</li> <li>・タクシー</li> </ul>
乗継拠点	○ 広域基幹交通、町内基幹交通及び生活交通間の乗継拠点で、待合空間の整備・乗継き情報等機能強化を図るべき拠点として位置付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日生中央</li> <li>・紫合・南田原地区周辺</li> <li>・杉生</li> <li>・六瀬総合センター前</li> </ul>

### 2. 猪名川町における乗継拠点の考え方

乗継拠点	役割	想定する対象交通
日生中央	○ 町内と周辺市町を結ぶ町の骨格を形成する機能を担う広域基幹交通をはじめ、町内基幹交通及び生活交通が結節する交通機能を担う。また、猪名川町の中心部としての地域の拠点・賑わい機能やサービス機能としての役割も担う。	【広域基幹交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道（能勢電鉄：日生線）</li> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（清和台系統）、猪名川パークタウン線、つつじが丘線）</li> </ul> 【町内基幹交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（杉生系統）、日生ニュータウン線）</li> </ul> 【生活交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス「ふれあいバス」</li> <li>・デマンド交通「チョイソコいながわ」</li> <li>・タクシー</li> </ul>
紫合・南田原地区周辺	○ 町の北部地域（大島小学校区及び楊津小学校区）への玄関口に位置し、町内と周辺市町を結ぶ広域基幹交通と北部地域を結ぶ町内基幹交通や生活交通が結節する交通機能を担う。	【広域基幹交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（清和台系統）、猪名川パークタウン線、つつじが丘線）</li> </ul> 【町内基幹交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（杉生系統）、日生ニュータウン線）</li> </ul> 【生活交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス「ふれあいバス」</li> <li>・タクシー</li> </ul>
杉生・六瀬総合センター前	○ 路線バスが乗り入れ困難な地域の生活圏内の移動を支える生活交通と、猪名川町中心部等へアクセスする町内基幹交通との乗継拠点の機能を担う。	【町内基幹交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バス（阪急バス：杉生線（杉生系統））</li> </ul> 【生活交通】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス「ふれあいバス」</li> <li>・デマンド交通「チョイソコいながわ」</li> </ul>

※町の考え方を示したものであり、交通事業者との協議・調整が必要である。

### 3. 猪名川町地域公共交通ネットワーク見直し方針

公共交通事業者やまちづくり施策との連携をはじめ、人口減少、高齢化の進展を見据え、コミュニティバス「ふれあいバス」をはじめとする町内の公共交通ネットワークのあり方を定める

#### ① 路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」等の役割を明確にし、利用しやすい料金体系による新たなバスネットワークの形成

猪名川町内の多くの地域において、路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」のルートが重複し、異なる料金体系で運行している状況を踏まえ、路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」の役割分担と連携による効果的で効率的なルートの見直しと、料金格差の緩和に向けた新たな料金体系の構築を図り、新たなバスネットワークの実現を目指します。

#### ② まちづくりと連携した交通結節点の強化

猪名川町の交通・商業機能の拠点となる日生中央駅前、紫合・南田原地区周辺及び町内の主要な地点等を『乗継拠点』と位置づけ、猪名川町内各地から交通結節点（乗継拠点）へのアクセス利便を向上し、鉄道・路線バス・コミュニティバス「ふれあいバス」等の乗り継ぎを改善することで、町内や町外への住民の公共交通による移動の利便性を確保します。

#### ③ 地域特性や利用実態に応じた多様な交通システムによる持続可能な交通体系の構築

地域別利用実態や、時間帯による利用実態を踏まえ、効率的な運行を図るために、既存の交通システムにとらわれず、経費の削減が見込まれる効率的な新たな交通システムへの転換も含めた見直しを行います。それにより、財政負担の軽減を図り、持続可能な交通体系の構築をめざします。

#### ④ 住民・事業者・行政などの多様な関係者との連携

住民をはじめとする地域の関係者、事業者、行政などがそれぞれの立場で役割を認識し、協働により公共交通を支えることで、地域に適した持続可能な公共交通の実現をめざします。また、地域の公共交通を地域住民自身で守り育てる意識の醸成を図ります。



出典：猪名川町地域公共交通ネットワーク見直し方針（令和2年（2020年）3月策定 猪名川町）

### 公共交通ネットワークのイメージ図

※ 別添のとおり

## 2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

### ○ 評価の基本的な考え方

計画の推進にあたっては、PDCAサイクルに基づいて、計画の進捗確認と効果の検証・評価を行うものとする。なお、猪名川町総合計画や猪名川町都市計画マスタープラン等の上位計画・関連計画の改訂、国や兵庫県における関連する法令・計画の見直し、社会情勢の変化などにも配慮して、適宜見直しを図る。

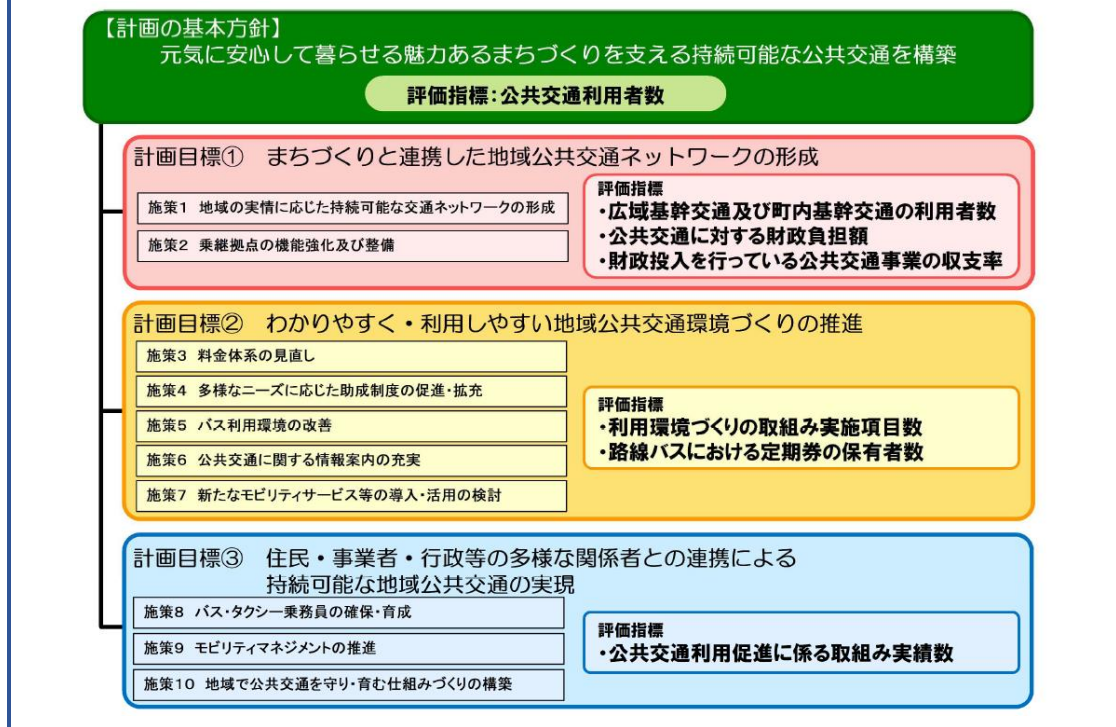


○ 評価指標と目標値

猪名川町地域公共交通計画における基本方針及び計画目標に係る評価指標と目標値の設定は以下のように設定する。

評価指標		基準値(年次) 目標値(目標年次)
基本方針	公共交通利用者数	基準値:19,279人(令和元年) 目標値:13,389人(令和12年)
計画目標①	広域基幹交通及び町内基幹交通の利用者数	
	鉄道乗降者数(日生中央駅)	基準値:10,623人/日(令和元年) 目標値:7,209人/日(令和12年)
	路線バス乗降者数(町内停留所)	基準値:8,864人/日(令和元年) 目標値:6,015人/日(令和12年)
	公共交通に対する財政負担額	現在値:6,120万円/年(令和5年度) 目標値:7,710万円/年(令和12年度)
	財政投入を行っている公共交通事業の収支率	
	杉生線(杉生系統)	基準値:- 目標値:25.0%(令和12年度)
	コミュニティバス「ふれあいバス」	基準値:1.6%(令和2年度) 目標値:25.0%(令和12年度)
	デマンド交通「チョイソコいながわ」	基準値:16.3%(令和3年) 目標値:25.0%(令和12年度)
計画目標②	利用環境づくりの取組み実施項目数	基準値:4件(令和3年度) 目標値:10件(令和12年度)
	路線バスにおける定期券の保有者数	基準値:1,577人(令和3年) 目標値:1,252人(令和12年)
計画目標③	公共交通利用促進に係る取組み実績数	基準値:3件(令和3年度) 目標値:10件(令和12年度)

- ・ 目標の達成に向けて実施する施策について、施策実施による効果が発現しているか確認し、状況に応じてスケジュールや施策内容等の見直しを実施。
- ・ 住民に対して、計画の取組み状況を伝えるとともに、利用者の立場として積極的に公共交通を利用する意識の醸成を図る。
- ・ 事業実施主体にとって、計画の中における施策の効果を確認し、さらなる施策実施に向けたモチベーション（動機づけ）とする。
- ・ 「指標の明示化」（施策・事業の実施により発生する効果・成果を表すアウトカム指標など）が求められるため、可能な限り定量的で分かりやすい指標を設定。



### 3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

#### (1) 取組経緯

##### 【地域内フィーダー系統】

##### ○ 地域内の公共交通の概要、問題点

猪名川町の公共交通は、現在、鉄道（能勢電鉄（株））、路線バス（阪急バス（株））をはじめ、町内の交通不便地の解消と、高齢者や障がい者、学生などで車を運転しない方の移動手段の確保を目的として、平成12年からコミュニティバス「ふれあいバス」を運行している。また、交通不便地の移動手段を将来的に維持していくために、地域の停留所から幹線道路上のバス停までエリア内限定で運行するデマンド交通「チョイソコいながわ」の実証実験運行を令和2年5月から実施し、令和4年4月から本格運行している。

しかし、人口減少の進行による公共交通利用者の減少や公共交通関連の公費負担が増大する状況から、路線バスでは一部区間の廃止や減便が行われており、鉄道を含め

た町内公共交通の維持・確保・改善や公共交通網のあり方について抜本的な見直しが喫緊の課題となっている。一方で、鉄道駅や商業などの都市機能を有するエリアと、中山間地域などの居住エリアを公共交通でつなぐことにより、まちづくりと連携した快適な住民生活を維持する必要がある。

#### 現状・問題点を踏まえた課題

猪名川町を取り巻く地域公共交通の現状・問題点を踏まえ、猪名川町における地域公共交通の課題を以下に示します。

##### ① 持続可能な公共交通体系の構築

- ・人口減少や少子化に伴う公共交通利用者の減少やバス乗務員不足による路線バスのサービス水準の低下や路線廃止などの悪循環の防止と改善
- ・高齢者や運転免許証自主返納者等の自動車を運転できない方に対する移動手段の確保
- ・公共交通と福祉施策による輸送サービスの役割分担
- ・地域のニーズや事情に応じた公共交通システムの見直し

##### ② 公共交通の維持・活性化に向けた料金体系の見直し

- ・公共交通の持続性を高めるため、路線バスやコミュニティバス「ふれあいバス」の料金体系の見直し
- ・異なる公共交通モード間の乗継時における料金負担の軽減

##### ③ 各交通モードの役割の明確化とまちづくりとの連携による公共交通ネットワークの再構築

- ・利用ニーズに対応した効率的・効果的な交通ネットワークの構築
- ・住まいの地域から最寄りの都市拠点・集落拠点及び拠点間のアクセスを確保
- ・乗継ぎによる利便性の低下を極力抑える仕組みづくり
- ・まちづくりと連携した新たな拠点へのアクセスの検討

##### ④ 公共交通に対する意識醸成

- ・自動車利用者に対する公共交通利用の役割や必要性の理解
- ・地域主体による公共交通を守り・育てる意識の醸成
- ・公共交通のわかりやすい情報提供と利用促進

#### ○ 取組の実施に至る経緯

猪名川町は、阪急バス・能勢電鉄・コミュニティバス・タクシーが地域公共交通として、住民の皆様の重要な移動手段を担っているが、少子高齢化や人口減少に伴う公共交通利用者の減少や交通事業者の乗務員不足など、地域交通は深刻な状況にある。

平成30年度には、阪急バス（株）から協議の申し入れを受け、町内を運行する公共交通事業者等と協議し、令和2年5月から杉生線（阪急バス（株））の杉生～柏原間及び杉生～杉生新田間を運行休止とした。

そこで、利用者のニーズに合った路線に見直し、利便性を上げ猪名川町の地域交通を元気にするために、運営事業者であるネッツトヨタ神戸（株）、運行事業者である日の丸ハイヤー（株）と連携し、新しい交通システムとして乗り合い移動サービス「チヨイソコいながわ」を実施し、生活交通ネットワークの構築を進めた。

しかしながら、令和4年5月に、沿線人口の減少など利用者が減少したこと等の要因により、事業者が町へ退出意向（路線廃止）の申出をされた。

当該路線は通勤、通学、買い物、通院など地域生活に欠くことのできない移動手段であることから、維持・確保に向けて関係機関との協議・調整、住民意見交換会の開催等をはじめ、検討、協議を重ねた。

結果、路線を維持する地域旅客運送サービス継続事業を活用し、令和6年4月に

運行事業者を公募したところ、5月に阪急バス（株）が選定された。

需要規模に応じた運行水準を確保しつつ、地域ニーズ等に応じた路線の見直しによる利便性向上や経営改善による運行継続を目的とした杉生線地域旅客運送サービス継続実施計画を作成し、令和6年10月より実施している。

○ **取組の主な内容**（R6.10～R7.9）

「杉生線地域旅客運送サービス継続実施計画」に基づき、猪名川町・運行事業者が連携・協働し、以下のとおり運行計画の改善や各種利用促進に取り組んでいる。

○ **フィーダー系統の運行結果の概要**

◆ **公共交通利用者数**

チョイソコいながわ 阿古谷・松尾台地区：9,271人

阪急バス杉生線：44,134人

◆ **運行事業経費の負担内訳及び割合**

（チョイソコいながわ 阿古谷・松尾台地区）

事業経費：11,824千円

内 訳：運賃収入 2,366千円（20%）

国補助額 1,807千円（15%）

その他 1,800千円（15%）

町負担額 5,851千円（50%）

（阪急バス杉生線）

事業経費：50,109千円

内 訳：運賃収入 13,107千円（26%）

国補助額 17,712千円（35%）

その他 2,002千円（4%）

町負担額 17,288千円（35%）

○ **財政投入を行っている公共交通事業の収支率**

（チョイソコいながわ）

基準値		現在値		目標値	
令和3年度	16.3%	令和7年度	20.0%	令和12年度	25.0%

（阪急バス杉生線）

基準値		現在値		目標値	
令和3年度	—	令和7年度	26.2%	令和12年度	25.0%

○ 利用環境づくりの取組み実施項目数

基準値		現在値		目標値	
令和3年度	4件	令和7年度	6件	令和12年度	10件

◆ キャッシュレスサービスの導入（割引制度）

デマンド交通チョイソコいながわは、令和4年4月1日からの本格運行から、利用促進施策として顔認証決済システムを活用した利用回数割引を実施し、また、小人割引や障がい者割引を導入するなどの利用促進策を導入してきた。令和6年4月からは顔認証決済システムの廃止に伴い、キャッシュレス端末を導入し、利用回数によらず10%の割引を行っている。

◆ 阪神地域えきバスまっぷ。購入・配布

阪神北泉民局が招集・開催している「阪神都市圏公共交通利用促進会議」において発行している「阪神地域えきバスまっぷ。」を500部購入し、二十歳のつどいなどのイベントや窓口などで配布し、広域（阪神地域）を含めた公共交通の利用環境づくりに取り組んだ。

◆ hanica グランドパス70 の購入費助成（高齢者外出支援事業）

町内に居住している高齢者に対し交通費の一部を助成することにより、高齢者の外出を支援するとともに、社会参加の促進並びに高齢者による交通事故の抑制を図ることを目的として、「高齢者外出支援事業」を実施しており、令和3年（2021年）4月から70歳以上で1年以上猪名川町に住んでいる方を対象に、hanica はんきゅうグランドパス70 の購入費助成を継続している。

◆ バスロケーションシステムを活用したバス接近情報の提供

阪急バスでは、「バスロケーションサービス」を平成28年3月から開始し、平成30年3月から猪名川町を含む全路線で利用が可能となり継続して実施している。

◆ 路線バスのガイドブック「阪急バスのノリセツ」の作成・配布

阪急バスでは、阪急バスの基本の乗り方、阪急バス・阪神バス共通ICカード乗車券「hanica」等のお得な情報、取組みや乗車マナー等をまとめた「阪急バスのノリセツ」を作成している。

猪名川町では、転入者等住民窓口での案内や、二十歳のつどいやいながわまつり等、町で実施されるイベントにおいて配布した。

◆ デマンド交通「チョイソコいながわ」の運行・エリア拡大

令和2年（2020年）5月から運行開始し、阿古谷・松尾台地区、大

島地区の2つのエリアで運行・阿古谷・松尾台地区では「日生中央駅」、大島地区では「阪急バス杉生バス停」までの移動をサポートし、交通不便地の解消およびバスや鉄道の利用を促進している。

令和6年10月より、槻並地区、猪淵・銀山・広根地区、肝川・猪名川台・差組地区の3エリアを拡大した。

○ 公共交通利用促進に係る取組み

基準値		現在値		目標値	
令和3年度	4件	令和7年度	7件	令和12年度	10件

◆ 杉生線の利用促進をテーマとしたワークショップの開催

観光資源の多い町北部に、自家用車ではなく公共交通機関で訪れていただくためにはどうすればよいか、ひいては阪急バス杉生線の利用促進に向けて、行政や企業主体ではなく、住民主体で考える機会を作ることを目的としてワークショップを開催した。

◆ バスラッピングデザインのコンペティションの開催

阪急バス杉生線の利用促進策として、全国から猪名川町北部をイメージしたバスラッピングデザインのコンペティションを開催し、最優秀賞者のデザインを阪急バス1台に施し、運行している。そのPRとして、町広報誌、HPへの掲載、またメディア各社へプレスリリースし新聞記事掲載等でのPRを実施した。

◆ モビリティ・マネジメント教育事業の実施（4校）

路線バスの利用促進策として、小学生向けにモビリティ・マネジメント教育事業を企画し、教育委員会と町内各校と協議の上、実施した。

10月に松尾台小学校3年生が能勢電鉄本社、11月に白金小学校2年生が阪急バス猪名川営業所へ訪問し、各社既存路線への乗車体験や公共交通についての学習等を実施した。

また、公共交通の重要性を、ゲームを通して学習できるよう、猪名川町版「交通すごろく」を作成し、2月に猪名川小学校、つつじが丘小学校にて大学教授による本教材を使った授業の実施に向けて調整している。

◆ 各公共交通機関の案内誌による周知

「阪急バスのノリセツ」、「えきバスマップ」、「チョイソコいながわパンフレット」等案内誌を各公共施設や商業施設に設置し、また町内で実施されるイベントにおいて周知を図ることで、利用促進に努めた。

## 取り組み写真



↑ワークショップ



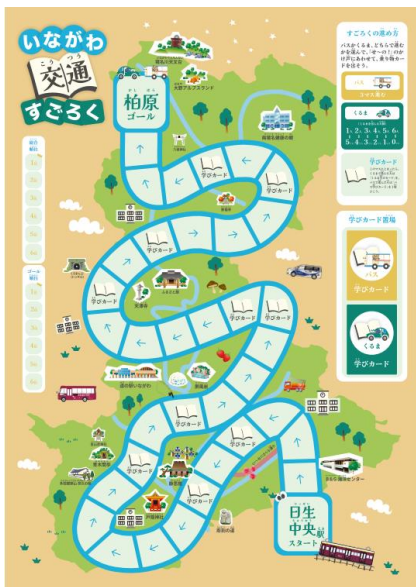
↑バスラッピングデザインコンペ表彰式



↑能勢電鉄でのMM教育事業



↑阪急バスでのMM教育事業



↑いながわ交通すごろく



↑エリア拡大版パンフレット



## ○ 見直し・改善に関する取組

令和6年度に取りまとめた「杉生線地域旅客運送サービス継続実施計画」に沿って、令和6年10月よりチョイソコいながわのエリア拡大・阪急バス杉生線の一部路線の再開を実施した。

阪急バス杉生線について、これまでに行った利用実態調査（OD、利用目的、属性）及び交通系ICカードデータをもとに、バス利用実績の分析し、運行状況改善の検討につなげる。

チョイソコいながわについて、隔月で猪名川町・運営事業者・運行事業者でミーティングを開催し、常時情報共有をすることで、運行の改善等に適宜対応している。

## ○ 交通会議の開催状況、議論の概要

### 【令和6年度】

#### ・令和7年1月10日（第4回）

議案1 地域公共交通維持改善事業に関する令和6年度事業評価(1次評価)について(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金、杉生線旅客運送サービス継続推進事業)

#### ・令和7年3月10日（第5回）

議案1 猪名川町地域公共交通会議 役員選任について

議案2 令和7年度猪名川町地域公共交通会議運営支援等業務の委託について

報告1 令和6年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会 報告について

報告2 杉生線旅客運送サービス継続実施計画の軽微変更について

報告3 路線バス杉生線の利用状況及び令和6年10月以降の各公共交通の運行状況等について

報告4 令和7年度 猪名川町公共交通予算事業について

### 【令和7年度】

#### ・令和7年6月18日（第1回）

報告1 令和6年度地域公共交通会議事業報告について

報告2 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域旅客運送サービス継続推進事業（運送継続計画推進事業））について

報告3 杉生線地域旅客運送サービス継続実施計画の軽微な変更について

議案1 令和6年度地域公共交通会議決算について

議案2 令和7年度地域公共交通会議予算について

議案3 令和8年度地域公共交通計画（地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金）の認定申請について

（1）ラッピングバス車両デザインコンペティション事業について

（2）日生中央駅前アーケードにぎわい創出事業について

（3）モビリティ・マネジメント事業について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年9月2日（第2回） <ul style="list-style-type: none"> <li>報告1 日生中央駅前アーケードにぎわい創出事業の報告について</li> <li>報告2 モビリティ・マネジメント教育事業の進捗状況について</li> <li>協議1 猪名川町版「交通すごろく」について</li> <li>議案1 ラッピングバス車両デザインコンペティション事業について</li> </ul> </li> <li>・令和7年11月27日（第3回） <ul style="list-style-type: none"> <li>議案1 令和7年度 地域公共交通確保維持改善 事業費補助金（地域内フィーダー系統確保 維持費国庫補助金）交付申請について</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年1月16日（第4回） <ul style="list-style-type: none"> <li>報告1 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）交付申請の変更について</li> <li>報告2 令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域旅客サービス継続推進実施事業（運送継続計画推進事業））補助金額の減額予定について</li> <li>議案1 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について</li> <li>議案2 令和7年度猪名川町地域公共交通会議補正予算について</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年3月予定（第5回） <ul style="list-style-type: none"> <li>報告1 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会報告について</li> <li>報告2 令和7年度バス利用実態調査報告について</li> <li>報告3 各公共交通機関運行状況について</li> <li>報告4 令和8年度猪名川町公共交通予算事業について</li> <li>議案1 猪名川町地域公共交通会議役員選任について</li> <li>議案2 令和8年度猪名川町地域公共交通会議運営支援等業務の委託について</li> </ul> </li> </ul>

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
チョイソコいながわ 運行事業 (地域公共交通確保 維持改善事業)	町・運営 事業者・ 運行事業 者	R4.4～	フ	デマンド交通チョイソコいながわ の運行（阿古谷・松尾台地区）
阪急バス杉生線運行 事業 (地域公共交通確保 維持改善事業)	運行事業 者	R6.10～	フ	阪急バス杉生線の運行

杉生線地域旅客運送サービス継続計画推進事業 (地域公共交通確保維持改善事業)	町地域公共交通会議	R6.10～	継推	利便性向上や経営改善による運行継続を目的として策定した杉生線地域旅客運送サービス継続実施計画に基づき、バスの利用実態調査や利用促進策を実施した。
---	-----------	--------	----	--

【種別】フ：地域内フィーダー系統、継推：運送継続計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
バス路線維持費補助金	町	R5.4～	杉生線（杉生系統）の路線維持確保に係る赤字補填

### 非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
なし			

### (3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

事業	取組内容	効果目標
チョイソコいながわ運行事業 (地域公共交通確保維持改善事業)	実施主体者（町・運営事業者・運行事業者）で隔月に乗合率の向上や運転手の休憩問題等生産性の向上に向け、継続的にミーティングを開催した。  交通会議で運行エリアや運行日数等、適正な運行に向け、協議した再編内容に沿って、令和6年10月に実施した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆公共交通利用者数の増加</li> <li>◆公共交通に対する財政負担額の減額</li> <li>◆財政投入を行っている公共交通事業の収支率の向上</li> </ul>
杉生線地域旅客運送サービス継続計画推進事業 (地域公共交通確保維持改善事業)	令和6年10月より、阪急バス杉生線の運行を見直し、一部運休区間を再開した。  杉生線の利用促進策として、バスラッピングデザインのコンペティションの開催や、モビリティ・マネジメント教育の実施、教材として交通すごろくの作成、杉生線の利用促進をテーマとしたワークショップを実施した。  また、利用実態調査（OD、利用目	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆利用環境づくりの取組み実施項目数の増加</li> <li>◆公共交通利用促進に係る実績数の増加</li> </ul>

	的、属性) 及び交通系 IC カードデータをもとに、バス利用実績の分析し、運行状況改善を検討した。	
--	---	--

#### 4. 具体的取組に対する評価

「チョイソコいながわ」は、地域公共交通計画に記載のとおり、町内の公共交通の機能分類として、広域基幹交通及び町内基幹交通、生活交通の3つのうち、生活交通に位置付けており、生活圏内における移動の利便性を向上させ、まちの賑わいの創出を図ろうとするものである。

令和4年4月1日に本格運行を開始し、各種運賃割引制度などの導入を行うことで利用の促進に努め、利用者数は令和6年度※「8,631人(阿古谷・松尾台地区)」から令和7年度※「9,271人(阿古谷・松尾台地区)」と、約7.4%、増加した。

収支率については、令和6年度※「17.6%」から令和7年度※「20.0%」と、2.4ポイント上昇した(補助金非考慮)。

「阪急バス杉生線」は、町内の公共交通の機能分類として、「広域基幹交通」及び「町内基幹交通」として位置付けられており、町と外を結ぶ広域な公共交通の軸であり、また町内の都市拠点と集落拠点間を結ぶといった町内外のアクセスに重要な役割を担っている。

しかしながら、令和2年5月に、コロナ禍の影響もあり当該路線の「杉生～柏原間」が運休の申し出があり、運休となった。

その後、町による路線の赤字補填と運行便数の見直し(減便)、チョイソコいながわのエリア拡大等の策を講じることで、運休していた一部路線の再開を果たした。

運行再開に係る杉生線の運行見直しで減便となったことにより、利用者数は令和6年度※の「56,987人」から、令和7年度※「44,134人」と約22.6%の減少となったが、収支率については、運賃改定等により、令和6年度※「25.9%」から令和7年度※「26.2%」と0.3ポイント上昇した(補助金非考慮)。

以上のことから、「阪急バス杉生線」及び「チョイソコいながわ」は、地域住民の移動の支えとして、地域公共交通計画に規定する生活圏内における移動の利便性の向上に貢献しているものの、「チョイソコいながわ」については、地域公共交通計画に定める目標値「25.0%」には達していないため、令和12年度の目標達成に向けて継続的に利用促進を図っていく必要がある。

一方で、今年度、利用促進策に力を入れることとして、3つの事業を実施した。

一つめは、杉生線の利用促進をテーマとして開催したワークショップを開催した。

地域公共交通の課題を、行政や企業ごととしてだけではなく、住民が自ら、自分ごととしてとらえる機会を創出できたと考える。

二つめは、阪急バス協力のもと、バスラッピングデザインのコンペティションを開催した。

全国から猪名川町北部をイメージしたデザインを募集したところ、町内外にかかわらず計65点の作品の応募があり、幅広い方々に杉生線をPRできたと考える。

また、最優秀賞に選定されたデザインは、阪急バス1台に施され、町内外を実際に運行しており、猪名川町北部のPRに寄与していると考えます。

3つめは、公共交通の将来的な需要の創出を目的として、町内小学生を対象としたモビリティ・マネジメント教育事業を実施した。

現在、バス利用者のメインは通勤通学者層であることから、普段自家用車の利用が多く公共交通にあまり触れる機会が少ない高齢者層や低年齢者層向けへのアプローチとして、公共交通の乗り方講座やモビリティ・マネジメント教育を講じて、利用者数向上を推進していく必要がある。

※ 令和6年度＝令和5年10月1日～令和6年9月30日

令和7年度＝令和6年10月1日～令和7年9月30日

## 5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課題	課題への対応方針
<p>チョイソコいながわにあつては、地域公共交通計画には数値目標として財政投入を行っている公共交通の収支率を令和12年度に25%とするとしているが、目標には達していない。</p>	<p>運行計画の内容を踏まえ適切なコストマネジメントを図るとともに、周知・啓発のためのイベント等への参画やモビリティ・マネジメント教育等、利用促進に向けた取り組みの実施を運営・運行事業者とともに検討し、需要拡大による運行収入増加を目指す。</p>

## 猪名川町地域公共交通会議（これまでの経緯）

### 1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>目標・効果について、達成できなかったところはあるものの、事業実施の適切性については評価できる。今後も、交通会議での議論を継続し運行計画の内容をブラッシュアップすることに加え、利用促進に向けた取り組みを実施され、持続可能な公共交通が構築されることを期待する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 交通会議で議論を重ねて作成した杉生線地域旅客運送サービス継続実施計画に沿って令和6年10月より計画事業を実施した。</li> <li>◆ 阪急バス杉生線の利用促進を目的として、全国から猪名川町北部をイメージしたバスラッピングデザインのコンペティシ</li> </ul>	<p>今後においても、利用促進に努め、持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けて、交通会議で継続して議題として挙げることで持続可能な公共交通ネットワークの構築の実質化に努める。</p>

	<p>ョンを開催し、最優秀賞者のデザインを阪急バス1台に施し、運行している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ また、路線バスの利用促進策として、モビリティ・マネジメント教育事業を企画し、年内の実施に向けて教育委員会と実施予定校と実施に向けて協議を重ねた。</li> <li>◆ チョイソコいながわについて隔月で猪名川町・運営事業者・運行事業者でミーティングを開催し、常時情報共有をすることで、運行の改善等に適宜対応した。</li> </ul>	
--	--	--

## 2. アピールポイント、特に工夫した点など

今回、利用促進にかかる初の試みとして、バスラッピングデザインのコンペティション事業、モビリティ・マネジメント教育事業を実施した。

バスラッピングのデザインについては、当初、デザイン会社に委託し、バスでのPRのみを目的としていたが、コンペ形式にすることで、バスを見かけた人だけでなく、PRの幅が全国に広がり認知度の底上げに寄与したことや、またコンペ参加者にはデザインを考えるにあたり猪名町北部に思いを馳せていただけたと考える。

さらに、最優秀賞に選定されたデザインを、実際に阪急バス1台に施工し、運行させることによって、受賞者のみならず、バスを見かけた人々にも改めて猪名川町に愛着と興味を持ってもらえたことと考える。

また、モビリティ・マネジメント教育事業については、経験として記憶に残るよう、話を聞くだけの講座で終わらず、体験して学んでもらうことを意識して企画した。

例えば、白金小学校の阪急バス猪名川営業所訪問については、実際の運行路線に乗って、実践的に乗車を体験してもらうよう設計したり、猪名川小学校、つつじが丘小学校の公共交通授業については、ゲームを通して公共交通の大切さを学んでもらうことを目的として交通すごろくの作成に取り組んでいる。

今後も、対象者の記憶に残るような実践的な学びを与え、公共交通の利用につながるような利用促進策を企画・実施を図っていく。